



新毎日

5月28日(火)
2024年(令和6年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社



児童たちの話し合いを見守る梅村さん(中央)

―橋本市高野口町名倉の市立高野口小学校で

がんの知識家で伝えて

検診の大切さ児童に授業

橋本 子どもたちががんの正しい知識を身に付け、

親世代にがん検診受診の大切さなどを伝えてもらおうと、「小学生へのがん教育」生命の授業」が15日、橋本市立高野口小学校であり、6年生と保護者計約50人が参加した。市と市教委、市内の医療法人南労会紀和病院が毎年、市内の小中学校を巡回して開催している。紀和病院・紀和プレスト(乳腺)センター長の梅村定司さんが講

師を務め、クイズを交えてがんの種類や原因などを説明。がんの早期発見には定期的な検診が重要だと強調し、

「家族らのがんになった場合に、大切なのは寄り添う気持ち。力になってあげられる子どもになってほしい」と語り掛けた。

「がんにならないためにできることは何だろう」という梅村さんの問いかけに、児童たちは「食事のバランスを考える」や「お酒を飲み過ぎない」などと

答えた。柏木祐里佳さん(11)は「がんは怖い

と思っていたが、早く診断を受けると9割が治ることが分かった。家では聞いた話を具体的に説明したい」と話した。

また、親世代に向けたがん啓発のサポートの認定証が今回から贈られることになり、受講した2クラスに手渡された。【藤原弘】